

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成20年11月20日(2008.11.20)

【公表番号】特表2002-503735(P2002-503735A)

【公表日】平成14年2月5日(2002.2.5)

【出願番号】特願2000-531484(P2000-531484)

【国際特許分類】

C 0 8 F 10/06 (2006.01)

C 0 8 F 4/64 (2006.01)

C 0 8 L 23/10 (2006.01)

B 6 5 D 1/00 (2006.01)

B 2 9 C 49/06 (2006.01)

【F I】

C 0 8 F 10/06

C 0 8 F 4/64

C 0 8 L 23/10

B 6 5 D 1/00 C

B 2 9 C 49/06

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年9月11日(2008.9.11)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

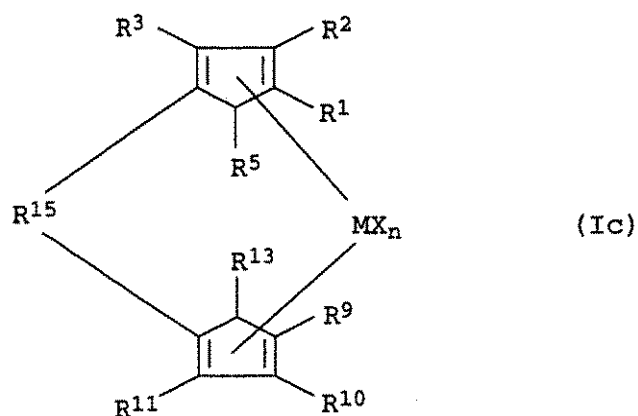
【特許請求の範囲】

【請求項1】

活性組成分として、

(A) 下式(Ic)

【化1】



で表わされ、かつ式中の

Mが、チタン、ジルコニウムまたはハフニウムを、

Xが、相互に同じでも異なってもよく、塩素、C₁－C₄アルキルまたはフェニルを、

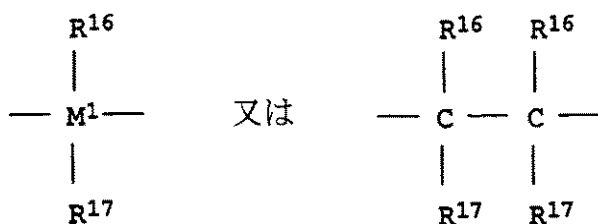
nが2を意味し、

R¹およびR⁹が、同一で、水素またはC₁－C₁₀アルキルを意味し、

R^5 および R^{13} が、同一で、水素、メチル、エチル、イソプロピルまたはtert-ブチルを意味し、

上記式中の R^{15} が、

【化2】



を意味し、

これら R^{16} および R^{17} が、同じでも異なってもよく、それぞれ水素、ハロゲン、 C_1-C_{10} アルキル、 C_1-C_{10} フルオロアルキル、 C_6-C_{10} フルオロアリール、 C_6-C_{10} アリール、 C_1-C_{10} アルコキシ、 C_2-C_{10} アルケニル、 C_7-C_{40} アリールアルキル、 C_8-C_{40} アリールアルケニルまたは C_7-C_{40} アルキルアリールであり、またはこれらを結合する原子と共に、炭素原子数4から15の飽和もしくは不飽和環式基を形成し、

この M^1 が、珪素であり、そして

2個の隣接する基 R^2 と R^3 及び R^{10} と R^{11} がそれぞれ合体して炭素原子数4から15の環式基を形成する場合の単一もしくは複数のメタロセン錯体と、

(B) 単一もしくは複数のメタロセニウムイオン形成化合物

とを含有するメタロセン触媒を使用して、適当な単量体を重合させることにより得られる、プロピレンの単独重合体またはプロピレンとその他の $C_2-C_{10}-1$ -アルケンとの共重合体を、少なくとも40質量%含有するオレフィン重合体を、200から280℃の溶融温度において射出成形してパリソンを形成し、その後まず110から150℃においてこのパリソンを予備吹込成形し、次いで、100から160℃において伸張吹込成形することにより、オレフィン重合体から射出伸張吹込成形された透明容器を製造する方法。

【請求項2】

請求項1により、オレフィン重合体から射出伸張吹込成形された透明容器を製造する方法において、上記メタロセンが、

ジメチルシランジイルビス(シクロペンタジエニル)ジルコニウムジクロリド、

ジメチルシランジイルビス(インデニル)ジルコニウムジクロリド、

ジメチルシランジイルビス(テトラヒドロインデニル)ジルコニウムジクロリド、

エチレンビス(シクロペンタジエニル)ジルコニウムジクロリド、

エチレンビス(インデニル)ジルコニウムジクロリド、

エチレンビス(テトラヒドロインデニル)ジルコニウムジクロリド、

テトラメチレン-9-フルオレニルシクロペンタジエニルジルコニウムジクロリド、

ジメチルシランジイルビス(3-tert-ブチル-5-メチルシクロペンタジエニル)ジルコニウムジクロリド、

ジメチルシランジイルビス(3-tert-ブチル-5-エチルシクロペンタジエニル)ジルコニウムジクロリド、

ジメチルシランジイルビス(2-メチルインデニル)ジルコニウムジクロリド、

ジメチルシランジイルビス(2-イソプロピルインデニル)ジルコニウムジクロリド、

ジメチルシランジイルビス(2-tert-ブチルインデニル)ジルコニウムジクロリド、

ド、

ジエチルシランジイルビス(2-メチルインデニル)ジルコニウムジブロミド、

ジメチルシランジイルビス(3-メチル-5-メチルシクロペンタジエニル)ジルコニ

ウムジクロリド、

ジメチルシランジイルビス（３－エチル－５－イソプロピルシクロペンタジエニル）ジ
ルコニウムジクロリド、

ジメチルシランジイルビス（２－エチルインデニル）ジルコニウムジクロリド、

ジメチルシランジイルビス〔３，３′－（２－メチルベンズインデニル）〕ジルコニウ
ムジクロリド、

ジメチルシランジイルビス〔３，３′－（２－エチルベンズインデニル）〕ジルコニウ
ムジクロリド、

メチルフェニルシランジイルビス〔３，３′－（２－エチルベンズインデニル）〕ジル
コニウムジクロリド、

メチルフェニルシランジイルビス〔３，３′－（２－メチルベンズインデニル）〕ジル
コニウムジクロリド、

ジフェニルシランジイルビス〔３，３′－（２－メチルベンズインデニル）〕ジルコニ
ウムジクロリド、

ジフェニルシランジイルビス〔３，３′－（２－エチルベンズインデニル）〕ジルコニ
ウムジクロリド、

ジフェニルシランジイルビス（２－メチルインデニル）ハフニウムジクロリド、および
これらに対応するジメチルジルコニウム化合物、

ジメチルシランジイルビス（２－メチル－４－フェニルインデニル）ジルコニウムジク
ロリド、

ジメチルシランジイルビス（２－メチル－４－ナフチルインデニル）ジルコニウムジク
ロリド、

ジメチルシランジイルビス（２－メチル－４－イソプロピルインデニル）ジルコニウム
ジクロリド、

ジメチルシランジイルビス（２－メチル－４，６－ジイソプロピルインデニル）ジルコ
ニウムジクロリド、およびこれらに対応するジメチルジルコニウム化合物、

から洗濯されることを特徴とする方法。

【請求項３】

請求項１または２により、オレフィン重合体から射出伸張吹込成形された透明容器を製
造する方法において、上記オレフィン重合体が、適当な単量体をメタロセン触媒の使用下
に重合させることにより得られる、プロピレンの単独重合体またはプロピレンとこれとは
異なる $C_2-C_{10}-1$ -アルケンとの共重合体であることを特徴とする方法。

【請求項４】

請求項１から３のいずれかにより、オレフィン重合体から射出伸張吹込成形された透明
容器を製造する方法において、メタロセン触媒を使用して得られるプロピレンの単独重合
体またはプロピレンとこれとは異なる $C_2-C_{10}-1$ -アルケンとの共重合体が、 120
から $165^{\circ}C$ の融点を有することを特徴とする方法。

【請求項５】

請求項１から４のいずれかにより、オレフィン重合体から射出伸張吹込成形された透明
容器を製造する方法において、メタロセン触媒を使用して得られるプロピレンの単独重合
体またはプロピレンとこれとは異なる $C_2-C_{10}-1$ -アルケンとの共重合体が、 230
 $^{\circ}C$ 、 $2.16kg$ の荷重下に測定して、 2 から $50g/10分$ の溶融流動速度 MFR を有
することを特徴とする方法。

【請求項６】

請求項１から５のいずれかにより、オレフィン重合体から射出伸張吹込成形された透明
容器を製造する方法において、オレフィン重合体が、さらに他の組成分として、このオレ
フィン重合体に対して 5 質量％までの核形成剤を含有することを特徴とする方法。

【請求項７】

メタロセン触媒（ $1c$ ）が、ジメチルシランジイルビス〔３，３′－（２－メチルベン
ゾインデニル）〕ジルコニウムジクロリドであることを特徴とする、請求項１から６のい

ずれかによる射出伸張吹込成形された透明容器。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0026

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0026】

ことに好ましいこの種の錯体化合物の具体例として、ジメチルシランジイルビス（シクロペンタジエニル）ジルコニウムジクロリド、ジメチルシランジイルビス（インデニル）ジルコニウムジクロリド、ジメチルシランジイルビス（テトラヒドロインデニル）ジルコニウムジクロリド、エチレンビス（シクロペンタジエニル）ジルコニウムジクロリド、エチレンビス（インデニル）ジルコニウムジクロリド、エチレンビス（テトラヒドロインデニル）ジルコニウムジクロリド、テトラメチレン-9-フルオレニルシクロペンタジエニルジルコニウムジクロリド、ジメチルシランジイルビス（3-tert-ブチル-5-メチルシクロペンタジエニル）ジルコニウムジクロリド、ジメチルシランジイルビス（3-tert-ブチル-5-エチルシクロペンタジエニル）ジルコニウムジクロリド、ジメチルシランジイルビス（2-メチルインデニル）ジルコニウムジクロリド、ジメチルシランジイルビス（2-イソプロピルインデニル）ジルコニウムジクロリド、ジメチルシランジイルビス（2-tert-ブチルインデニル）ジルコニウムジクロリド、ジエチルシランジイルビス（2-メチルインデニル）ジルコニウムジクロリド、ジメチルシランジイルビス（3-メチル-5-メチルシクロペンタジエニル）ジルコニウムジクロリド、ジメチルシランジイルビス（3-エチル-5-イソプロピルシクロペンタジエニル）ジルコニウムジクロリド、ジメチルシランジイルビス（2-エチルインデニル）ジルコニウムジクロリド、ジメチルシランジイルビス〔3, 3'-（2-メチルベンズインデニル）〕ジルコニウムジクロリド、ジメチルシランジイルビス〔3, 3'-（2-エチルベンズインデニル）〕ジルコニウムジクロリド、メチルフェニルシランジイルビス〔3, 3'-（2-メチルベンズインデニル）〕ジルコニウムジクロリド、ジフェニルシランジイルビス〔3, 3'-（2-メチルベンズインデニル）〕ジルコニウムジクロリド、ジフェニルシランジイルビス〔3, 3'-（2-エチルベンズインデニル）〕ジルコニウムジクロリド、ジフェニルシランジイルビス（2-メチルインデニル）ハフニウムジクロリド、およびこれらに対応するジメチルジルコニウム化合物が挙げられる。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0082

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0082】

パリソンの射出成形は、通常、200から280℃の融点で行なわれ、伸張吹込成形は、10から50バールの圧力、1：2から1：7の伸張割合で、100から160℃の温度で行なわれる。予備的吹込処理を行なう場合には、これは110から150℃の温度、1から10バールの圧力、1：2から1：5の伸張割合で行なわれる。